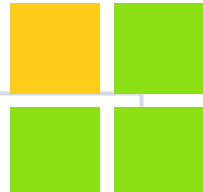


愛知県の 農業・林業・水産業の振興

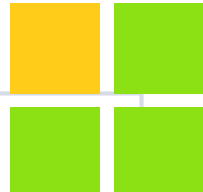
2024年12月3日（火）

愛知県農業水産局農政部農政課



本日の講義内容

- 1 農林水産業の役割
- 2 我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～
- 3 実は全国有数 あいちの農業
- 4 森林資源が充実 あいちの林業
- 5 豊かな海の幸 あいちの水産業
- 6 愛知県の農林水産業が盛んな背景
- 7 愛知県の農林水産行政
- 8 「食料・農業・農村基本法」の改正



本日の講義内容

- **1 農林水産業の役割**
- 2 我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～
- 3 実は全国有数 あいちの農業
- 4 森林資源が充実 あいちの林業
- 5 豊かな海の幸 あいちの水産業
- 6 愛知県の農林水産業が盛んな背景
- 7 愛知県の農林水産行政
- 8 「食料・農業・農村基本法」の改正



1-1 農林水産業は生活・社会を安定させる基盤

生活に欠くことのできない基礎的な物資の供給

- ・ 食料（生鮮食料品）、木材、花き 等
- ・ 加工素材→食品、医薬品、紙、燃料、肥料 等

経済活動の促進

- ・ 農林漁業者の所得確保、経済への寄与

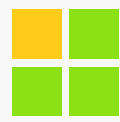
農山漁村での定住による地域社会の維持

- ・ 過疎化の防止、地域文化の継承 等

生産活動を通じた森林・農地の適正管理による国土・環境の保全等

- ・ 災害の防止、水資源のかん養、緑や景観の提供 等

国民の安全で豊かな暮らしを守り、
国家社会を安定させる基盤



1-2 農林水産業・農山漁村の有する多面的機能

○多面的機能とは：

県土や自然環境の保全、水資源のかん養、洪水の防止などの、森林、農地、海及び川が有する農林水産物の供給以外の多面にわたる機能。





1-3 多面的機能の貨幣評価－2000年試算－

【全 国】 89兆4,439億円（2000年農業産出額 9兆1,295億円）

【愛知県】 1兆1,884億円（2000年農業産出額 3,419億円）

愛知県における多面的機能の貨幣評価額（平成12年）

（単価：億円／年）

【農地（農業）】

項 目	評価額
洪水防止	754
水資源かん養	109
土壌侵食防止	59
有機性廃棄物処理	7
気候緩和	4
保健休養・やすらぎ	1,373
合 計	2,306

※日本学術会議の答申を基に試算。
教育の場の提供、大気浄化等の機能は含まず。

【森林（林業）】

項 目	評価額
二酸化炭素吸収	136
表面侵食防止	2,508
表層崩壊防止	749
洪水緩和	677
水資源貯留	1,217
水質浄化	1,946
化石燃料代替	111
保健・レクリエーション(うち保養)	200
合 計	7,544

※日本学術会議の答申を基に試算。
生物多様性の保全等の機能は含まず。

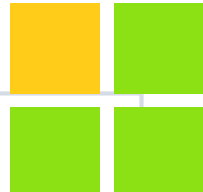
【海と川（水産業）】

項 目	評価額
物質循環	424
水質浄化	701
環境美化(海浜、海底等)	98
生命財産保全(救助活動等)	35
保養・交流・学習	776
合 計	2,034

※水産庁委託調査結果を基に試算。
生物多様性の維持、文化・伝統の継承等の機能は含まず。



本日の講義内容

- 
- 1 農林水産業の役割
 - 2 **我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～**
 - 3 実は全国有数 あいちの農業
 - 4 森林資源が充実 あいちの林業
 - 5 豊かな海の幸 あいちの水産業
 - 6 愛知県の農林水産業が盛んな背景
 - 7 愛知県の農林水産行政
 - 8 「食料・農業・農村基本法」の改正



2-1 農地面積の推移と国際比較

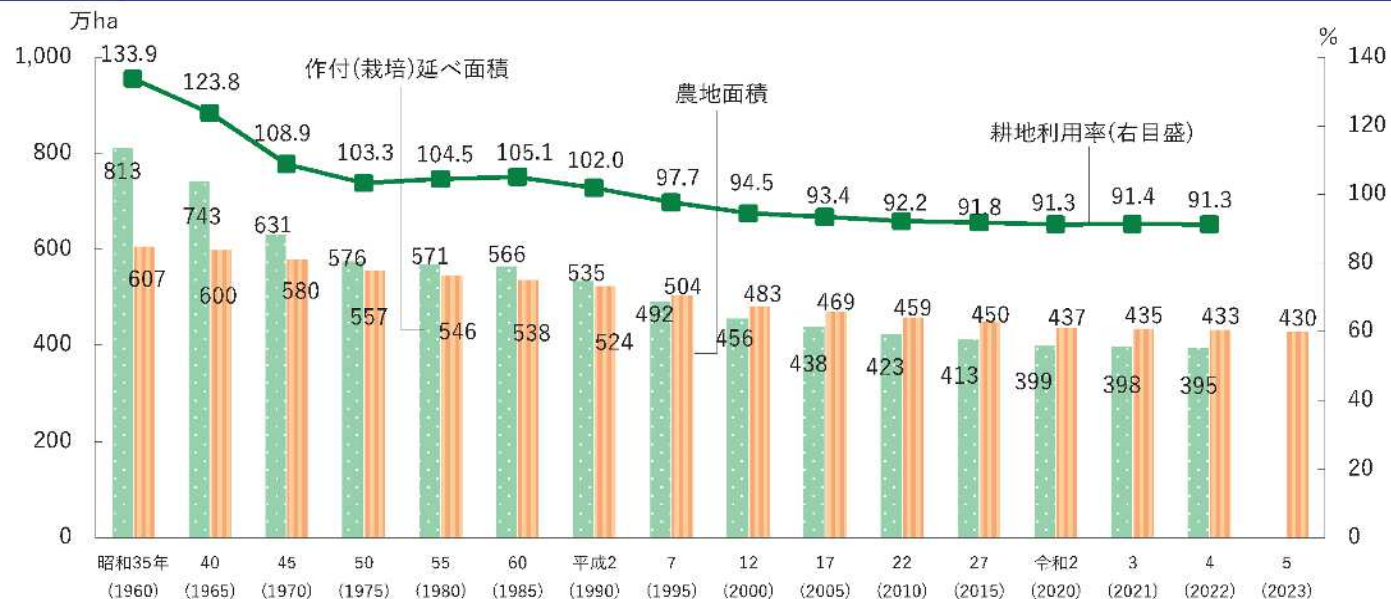
○農地面積や作付延べ面積は、緩やかに減少。

○農家1戸当たり耕地面積は、諸外国に比べて小さい。

	①農家1戸当たり 耕地面積(ha)	②日本の水準に 対する倍数
日本	2.3	1
イギリス	78.6	35
フランス	52.3	23
米国	169.6	75
豪州	2970.4	1309

(資料) 農林水産省「農業構造動態調査」(2011年)、EU「農業センサス」(2010年)、米国農務省統計(2010年)、豪州「Australian Commodity Statistics」(2010年)より作成

図表3-5-1 農地面積、作付(栽培)延べ面積、耕地利用率



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

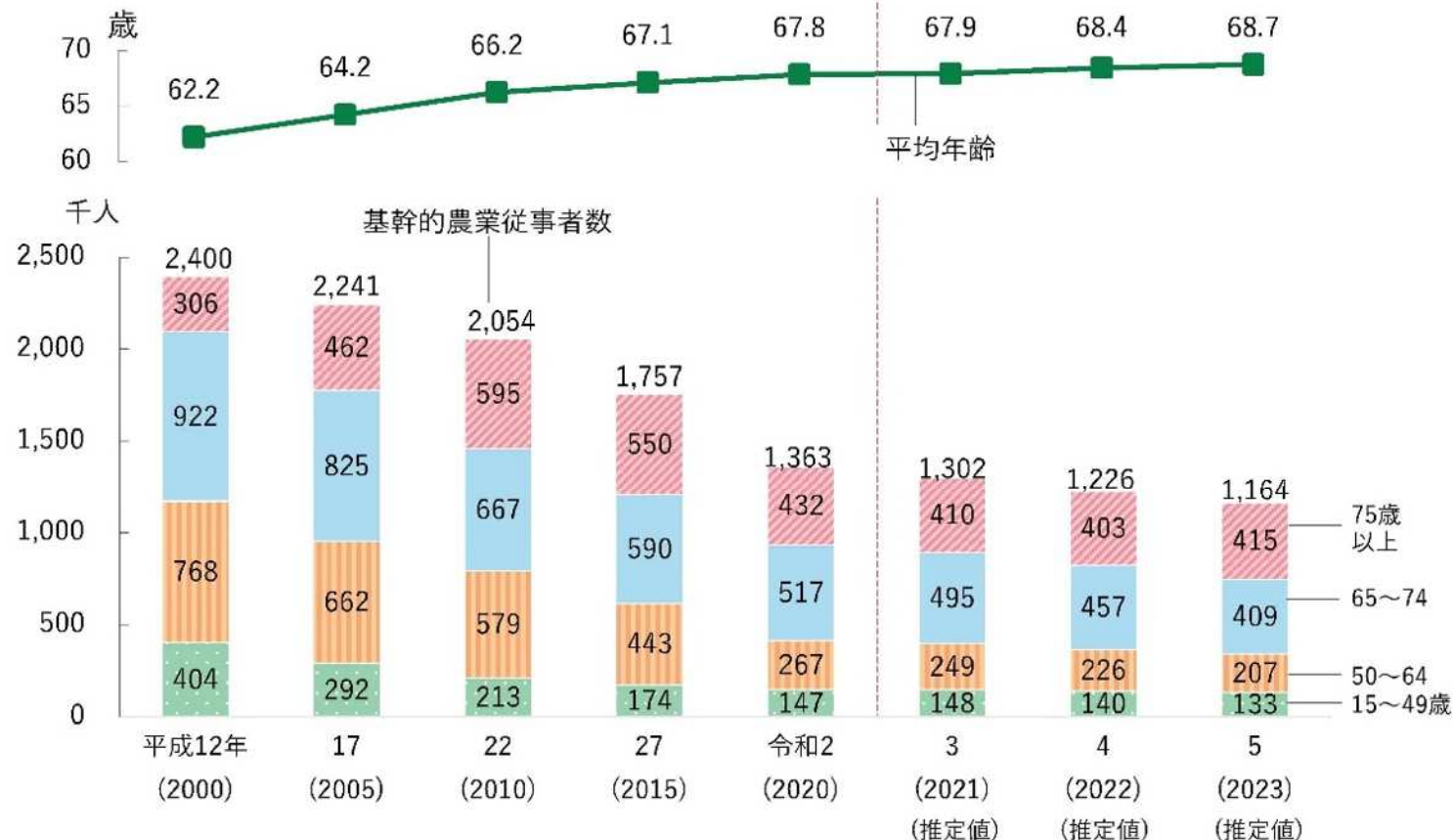
注：耕地利用率(%) = 作付(栽培)延べ面積 ÷ 農地面積 × 100

2-2 農業の担い手の状況

○基幹的農業従事者数は、約20年間で半減し、減少の一途。

○65歳以上が約7割を占め（平均年齢68.7歳）、高齢化が進行。

図表3-2-2 基幹的農業従事者数と平均年齢



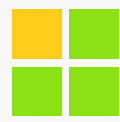
資料：農林水産省「2000年世界農林業センサス」、「2005年農林業センサス」、「2010年世界農林業センサス」（組替集計）、「2015年農林業センサス」（組替集計）、「2020年農林業センサス」、「農業構造動態調査」を基に作成

注：1) 各年2月1日時点の数値。ただし、平成12(2000)、17(2005)年の沖縄県については前年12月1日時点の数値

2) 平成12(2000)年及び平成17(2005)年については販売農家の数値

3) 令和3(2021)、4(2022)、5(2023)年については、農業構造動態調査の結果であり、標本調査により把握した推定値

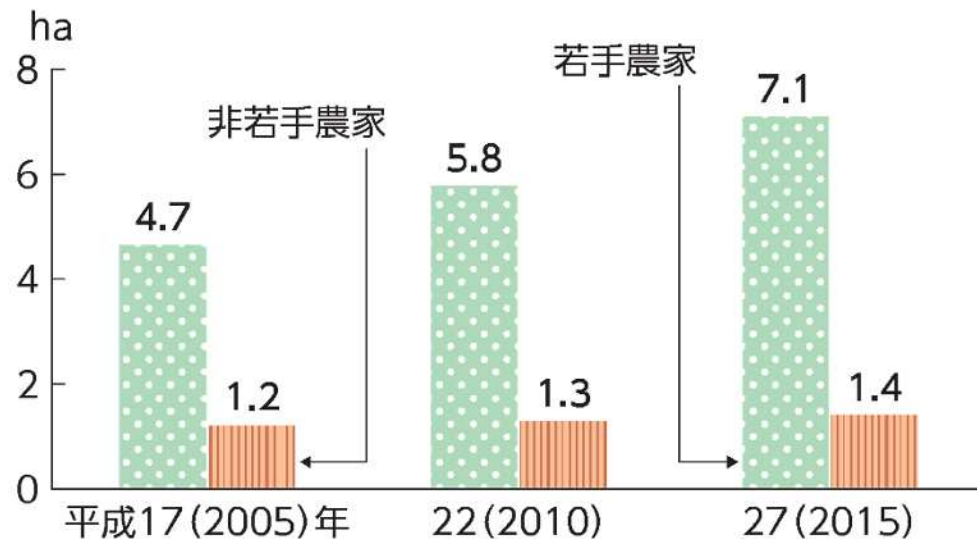
資料：農林水産省
「農業センサス」



2-3 経営規模の拡大

○規模拡大は、若手農家で顕著に進展。

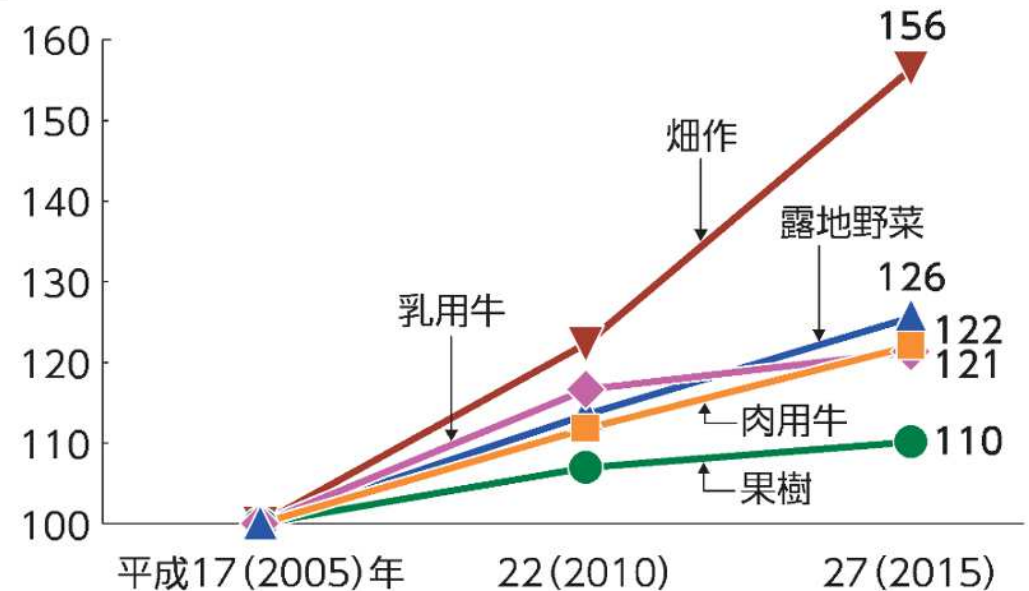
〔稲作単一経営の1戸当たり規模〕



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

注：各農家の1戸当たりの経営規模は、経営耕地面積÷経営耕地のある農家数で集計

〔稲作単一経営以外の1戸当たり規模〕



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

注：1) 稲作は、「麦類」、「雑穀・いも類・豆類」、「工芸農作物」

2) 各年の1戸当たりの経営規模は次のとおり集計

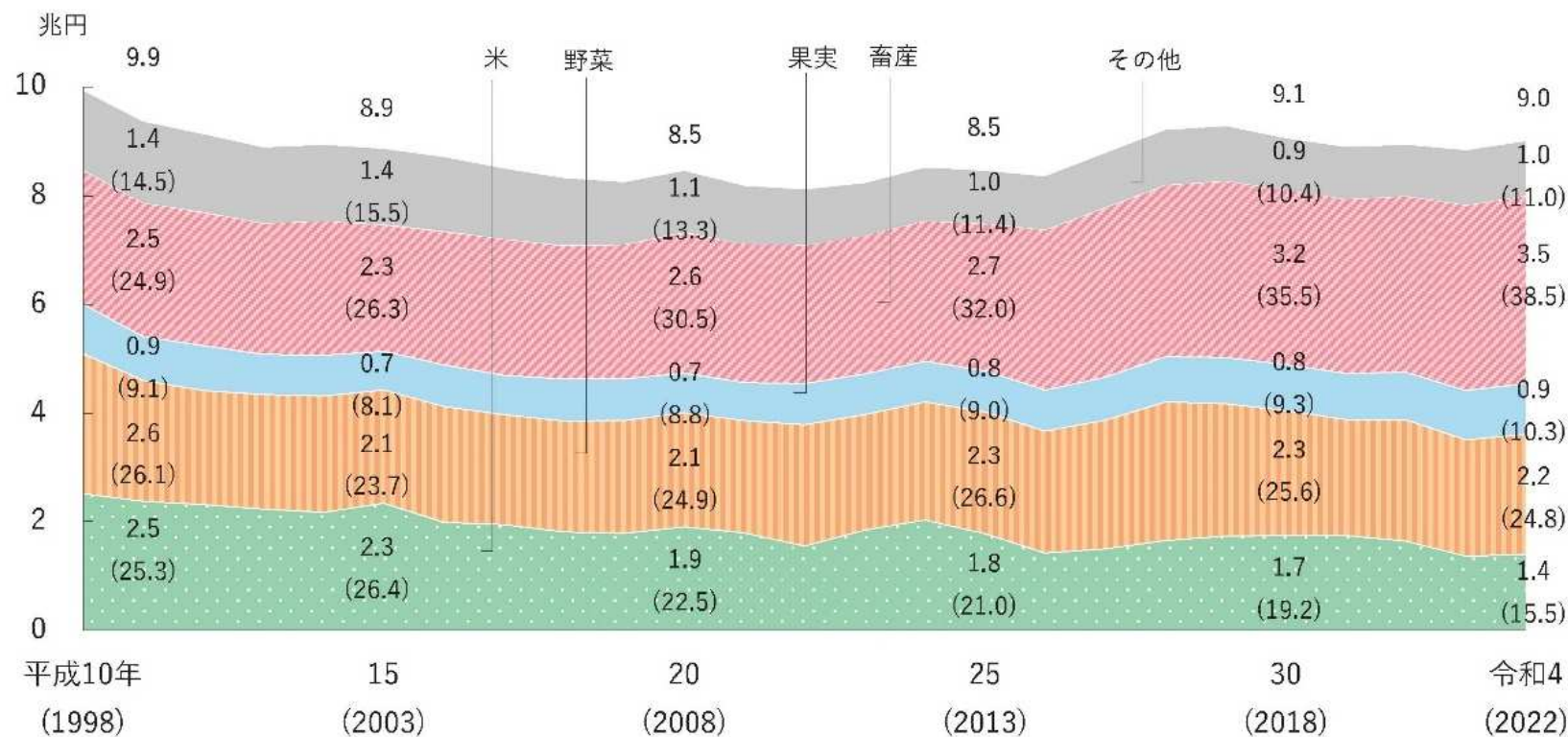
稲作、露地野菜、果樹は、経営耕地面積÷経営耕地面積のある農家数、乳用牛は、2歳以上の乳用牛飼養頭数÷2歳以上の乳用牛飼養農家数、肉用牛は、子取りめす牛、肉用種肥育、F1肥育、乳用種肥育の飼養頭数の合計÷子取りめす牛、肉用種肥育、F1肥育、乳用種肥育の飼養農家数



2-4 農業生産の推移

○平成は全体的に漸減傾向にあったが、近年は9兆円前後で推移。

図表3-1-1 農業総産出額



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注：1) 農業総産出額とは、当該年に生産された農産物の生産量(自家消費分を含む。)から農業に再投入される種子、飼料等の中間生産物を控除した品目別生産量に、品目別農家庭先販売価格を乗じて推計したもの

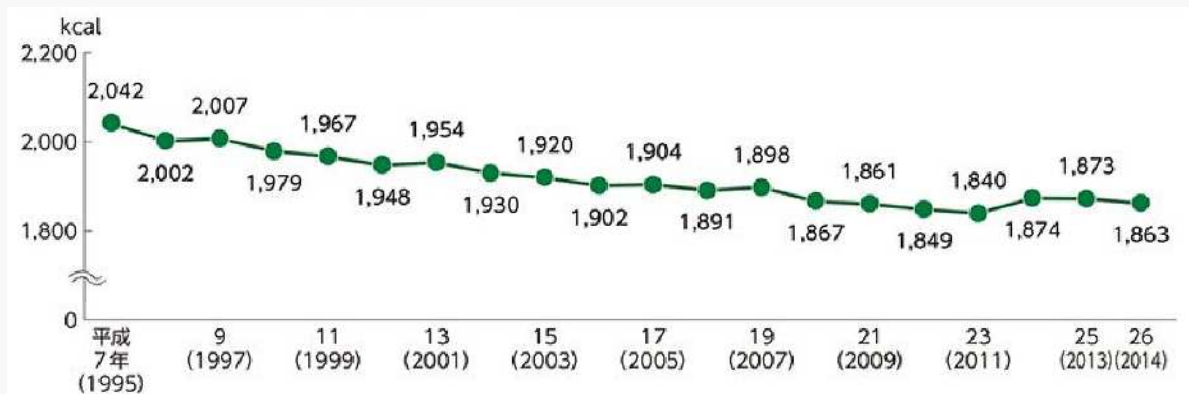
2) 「その他」は、麦類、雑穀、豆類、いも類、花き、工芸農作物、その他作物、加工農産物の合計

3) ()内は、各年の農業総産出額に占める部門別の産出額の割合(%)

出典：農林水産省「生産農業所得統計」



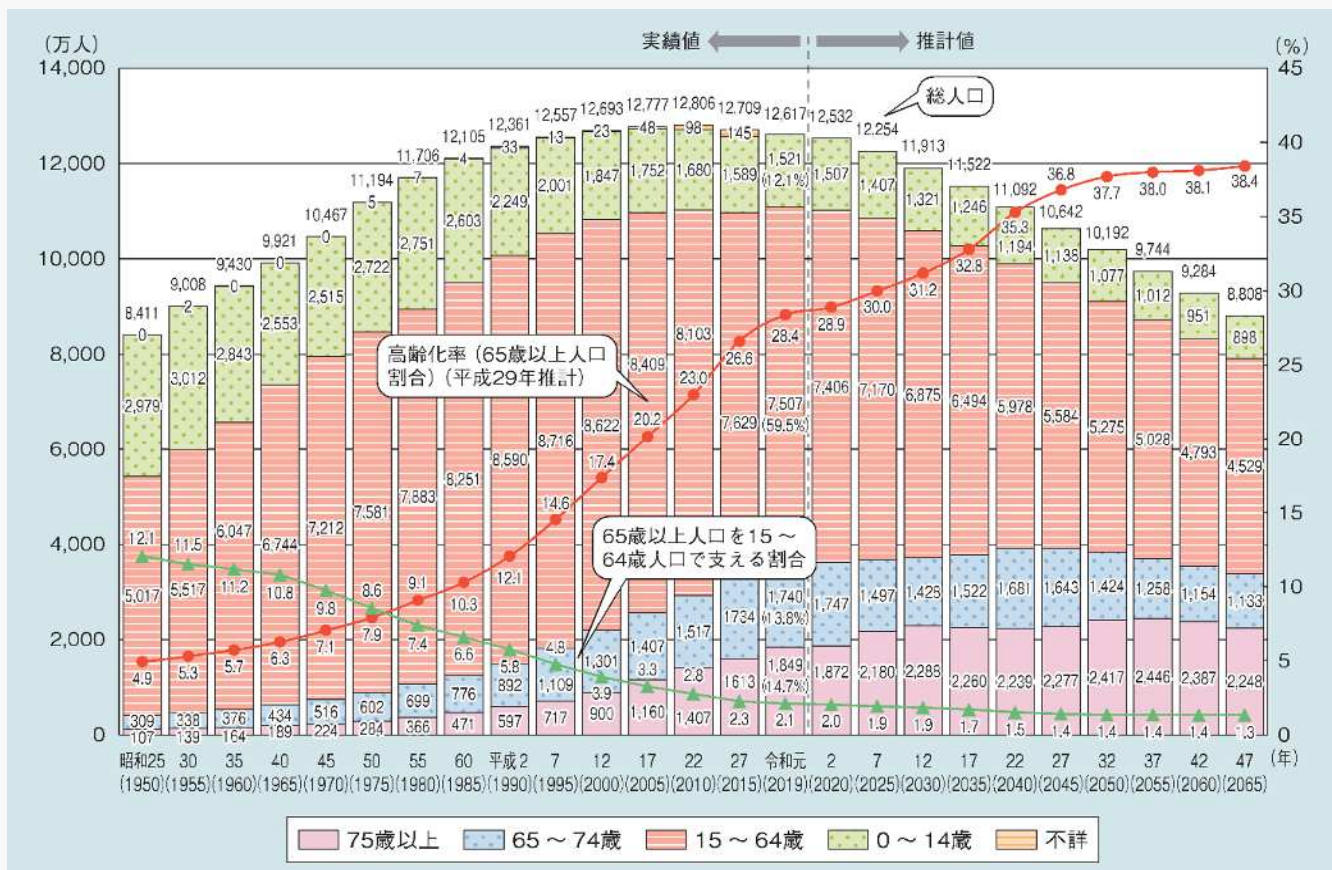
2-5 食料消費量の推移



出典：厚生労働省「国民健康・栄養調査」

○国民1人・1日当たりの摂取熱量は、漸減傾向で推移。

○人口は2008年をピークに減少。2053年に1億人を割る。



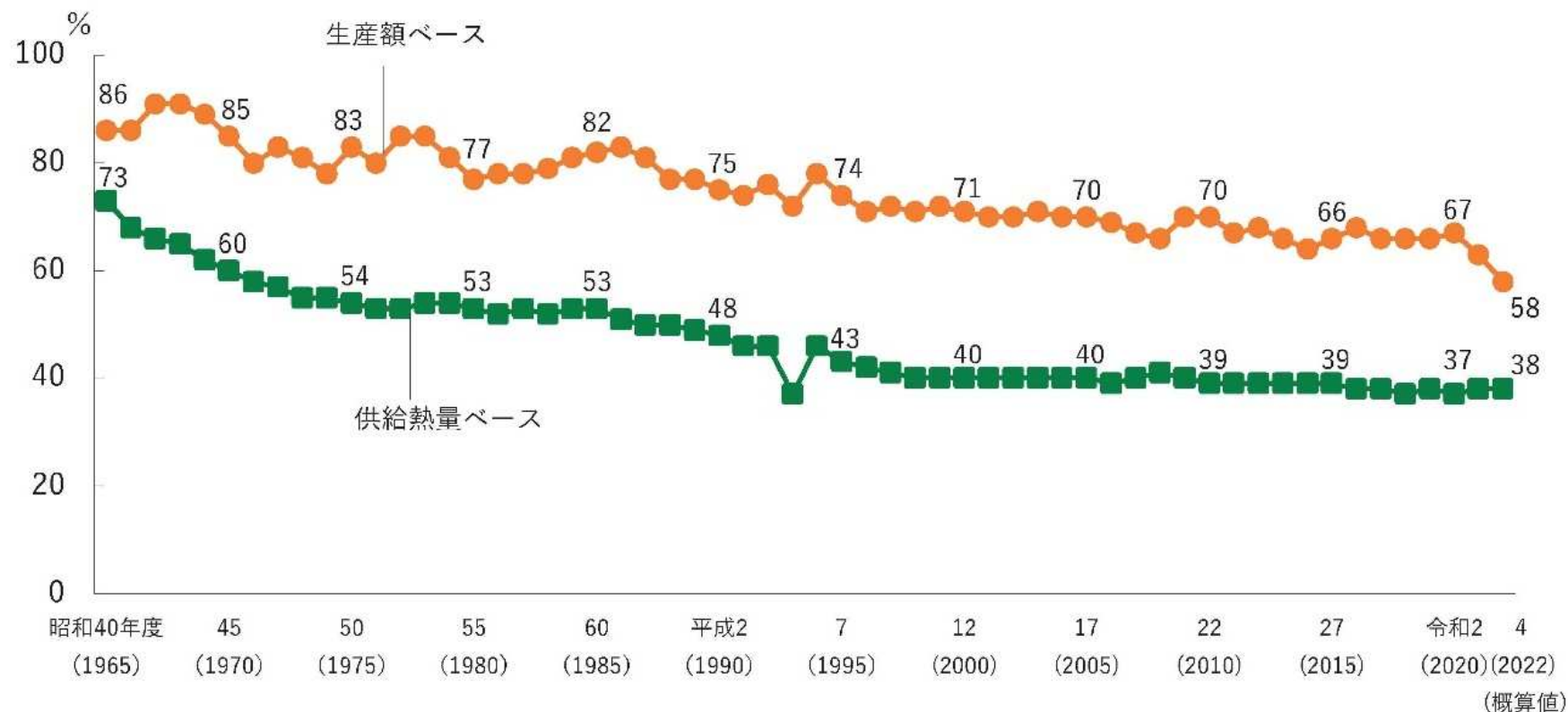
出典：総務省「国勢調査」



2-6 食料自給率の推移

○自給率の高い米の消費減、飼料等の輸入増加により長期的に低下傾向。

図表1-1-1 総合食料自給率



資料：農林水産省「食料需給表」

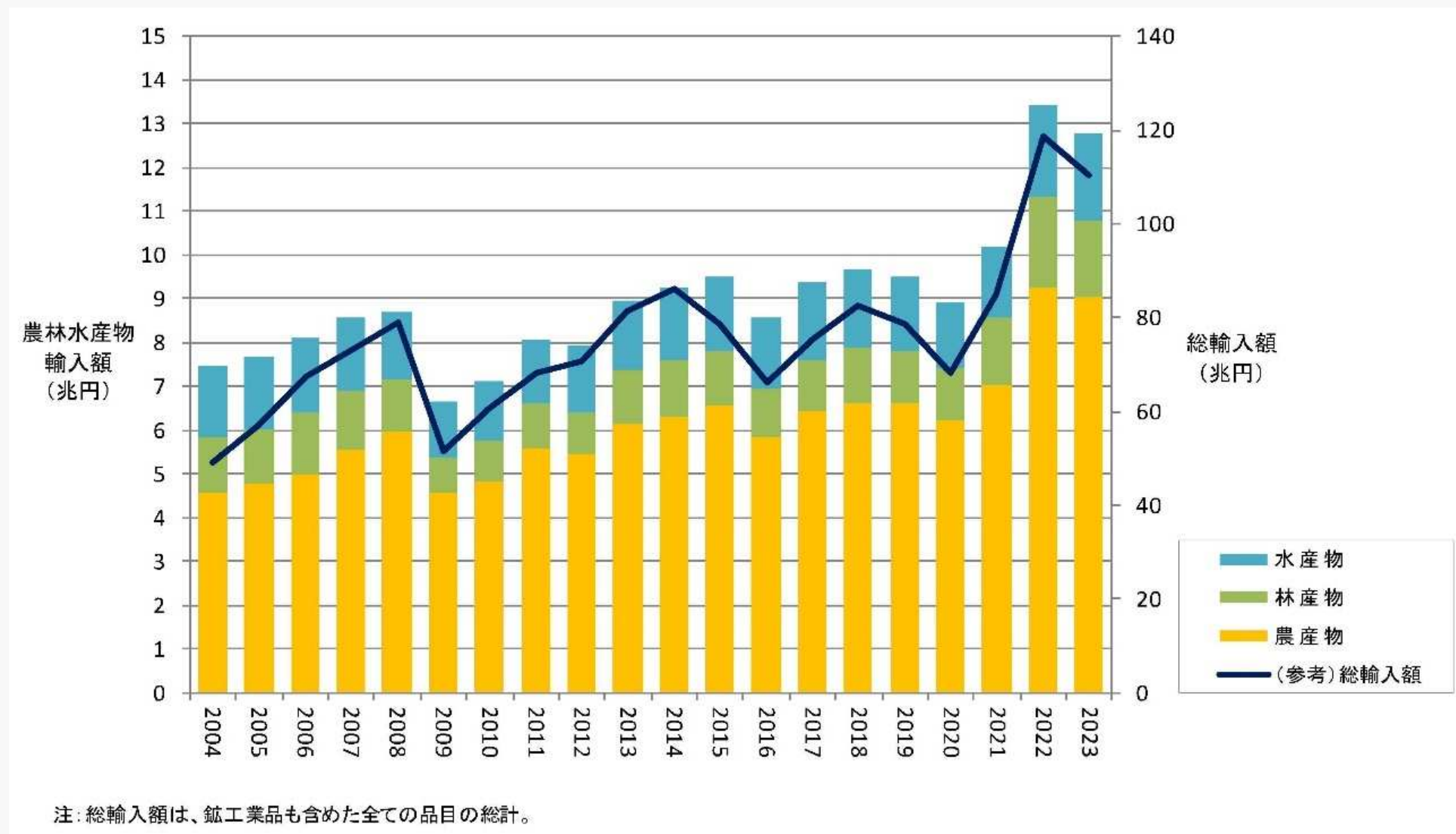
注：平成30(2018)年度以降の食料自給率は、イン(アウト)バウンドによる食料消費増減分を補正した数値

出典：農林水産省「食料需給表」



2-7 農林水産物の輸入

○2023年の輸入額は12兆7,890億円で、11兆4,309億円の輸入超過。

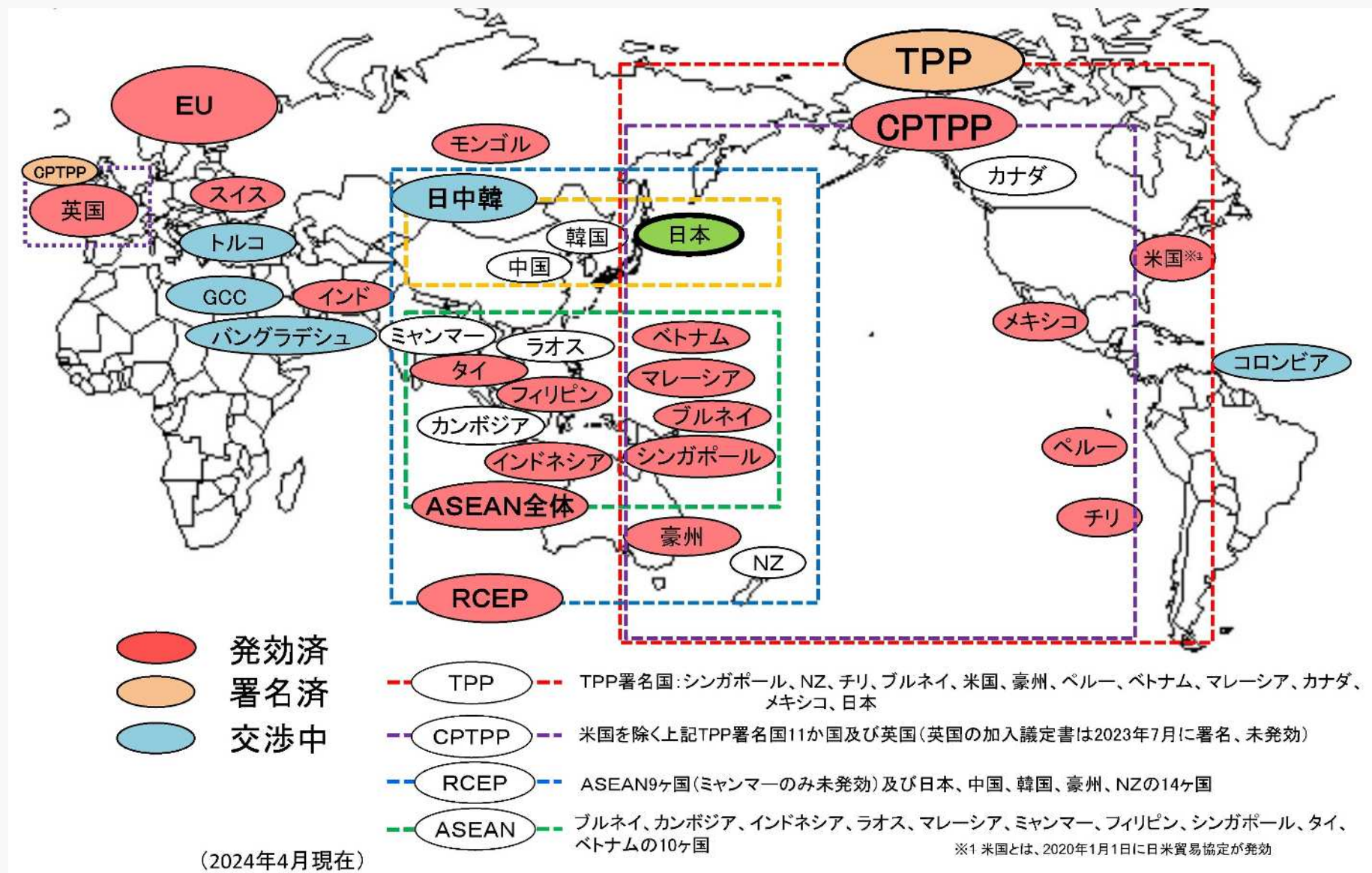


出典: 財務省「貿易統計」



2-8 国際交渉の状況（経済連携協定等の現状）

○1990年代以降、世界経済のグローバル化によりEPA・FTAは急速に増加。



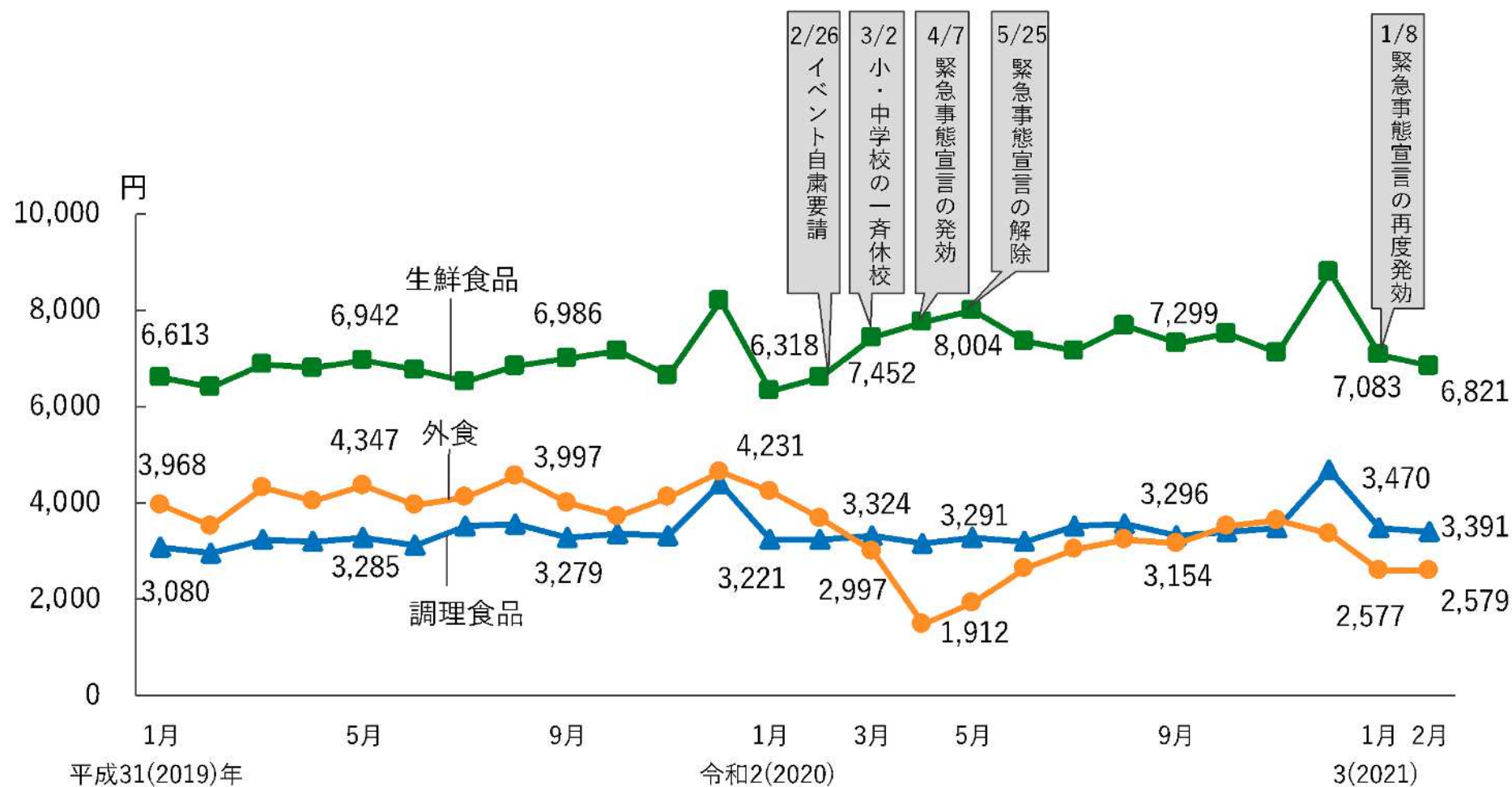
出典：農林水産省「2024.4 経済連携交渉の状況について」



2-9 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響

○外食への支出が大きく減少し、生鮮食品への支出が増加。

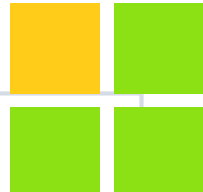
図表 特-1 1人1か月当たりの食料消費支出額の推移



出典：総務省「家計調査」を基に農林水産省作成



本日の講義内容

- 
- 1 農林水産業の役割
 - 2 我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～
 - 3 **実は全国有数 あいちの農業**
 - 4 森林資源が充実 あいちの林業
 - 5 豊かな海の幸 あいちの水産業
 - 6 愛知県の農林水産業が盛んな背景
 - 7 愛知県の農林水産行政
 - 8 「食料・農業・農村基本法」の改正



3-1 農業産出額

○農業産出額は全国 8 位（2022年）で、中部地区最大。

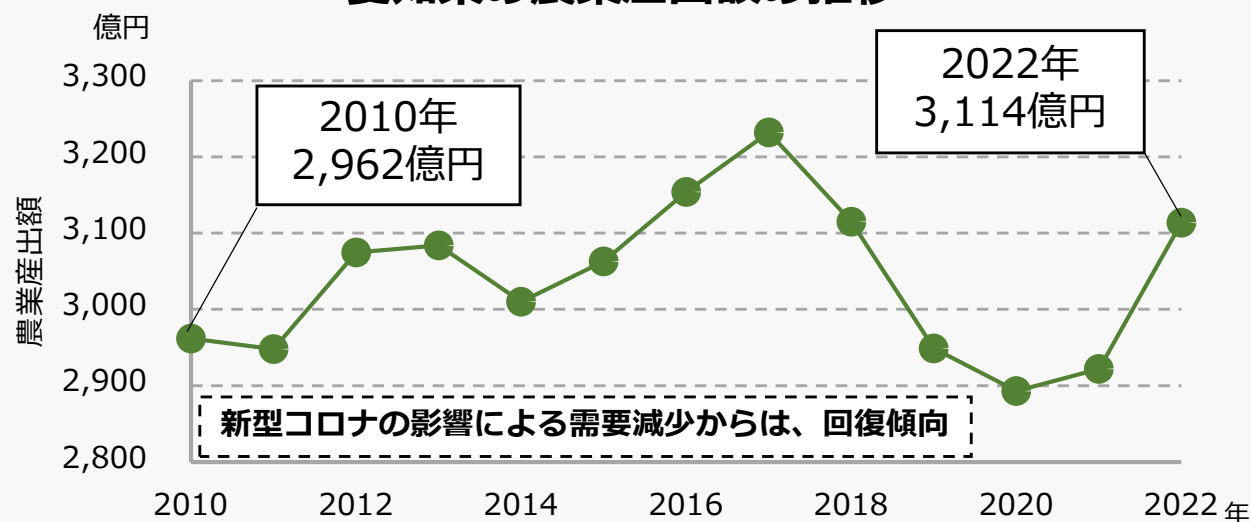
農業産出額の全国順位（2022）

順位	県名	億円	全国シェア
1 位	北海道	12,919	14.4%
2 位	鹿児島	5,114	5.7%
3 位	茨 城	4,409	4.9%
4 位	千 葉	3,676	4.1%
5 位	熊 本	3,512	3.9%
6 位	宮 崎	3,505	3.9%
7 位	青 森	3,168	3.5%
8 位	愛 知	3,114	3.5%
9 位	栃 木	2,718	3.0%
10位	長 野	2,708	3.0%
	全 国	90,015	—

主な品目別の産出額の全国順位（2022）

品目	順位	億円	全国シェア
麦 類	6 位	13	2.4%
野 菜	5 位	1,119	5.0%
花 き	1 位	573	16.4%
乳用牛	8 位	195	2.2%
豚	9 位	272	4.0%
鶏 卵	6 位	253	4.4%

愛知県の農業産出額の推移



3-2 あいちの農業の状況

○本県では、生産性・収益性の高い農業が行われている。

主 要 指 標	愛 知 県	全国シェア (全国平均)	順位	調査年（月）
耕地面積	72,900ha	1.7%	17	2022(7)
農業産出額	3,114億円	3.5%	8	2022
生産農業所得	1,173億円	3.7%	7	2022
農業経営体数	26,893経営体	2.5%	19	2020(2)
農産物販売金額 1,000万円以上経営体数	5,147経営体	4.0%	4	2020(2)
1経営体当たり生産農業所得	4,362千円	(2,959千円)	5	2022
1経営体当たり平均耕地面積	271.1a	(402.1a)	26	2022
耕地10a当たり生産農業所得	161千円	(74千円)	3	2022

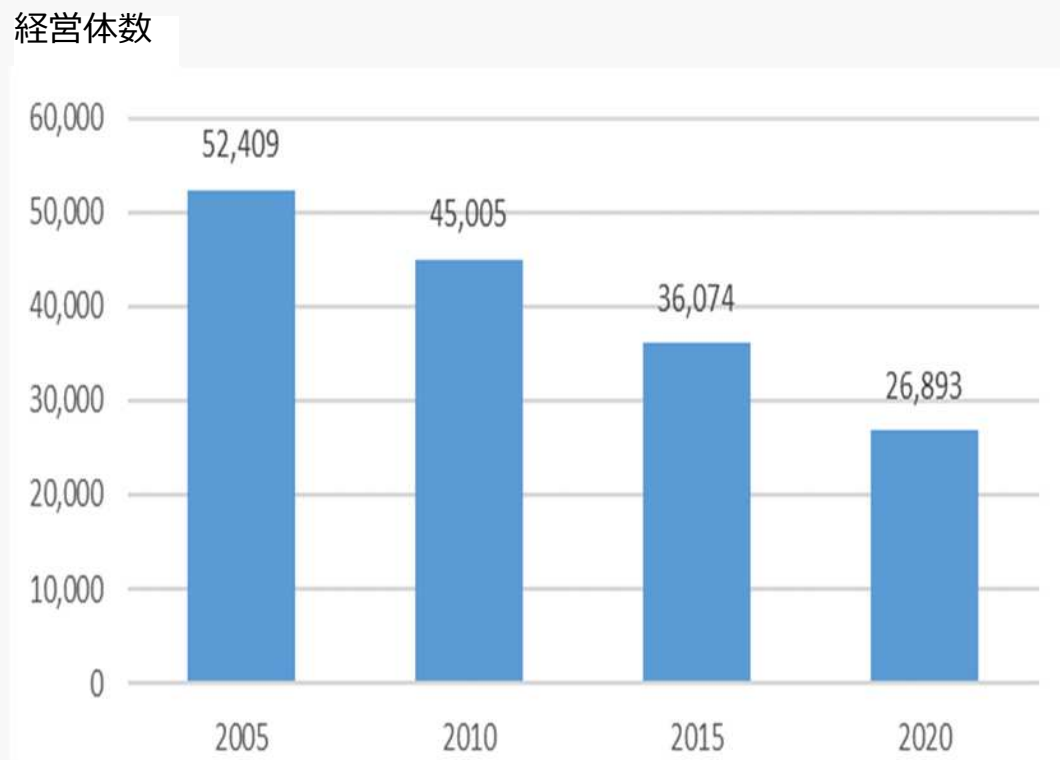
出典：農林業センサス、耕地面積調査、生産農業所得統計



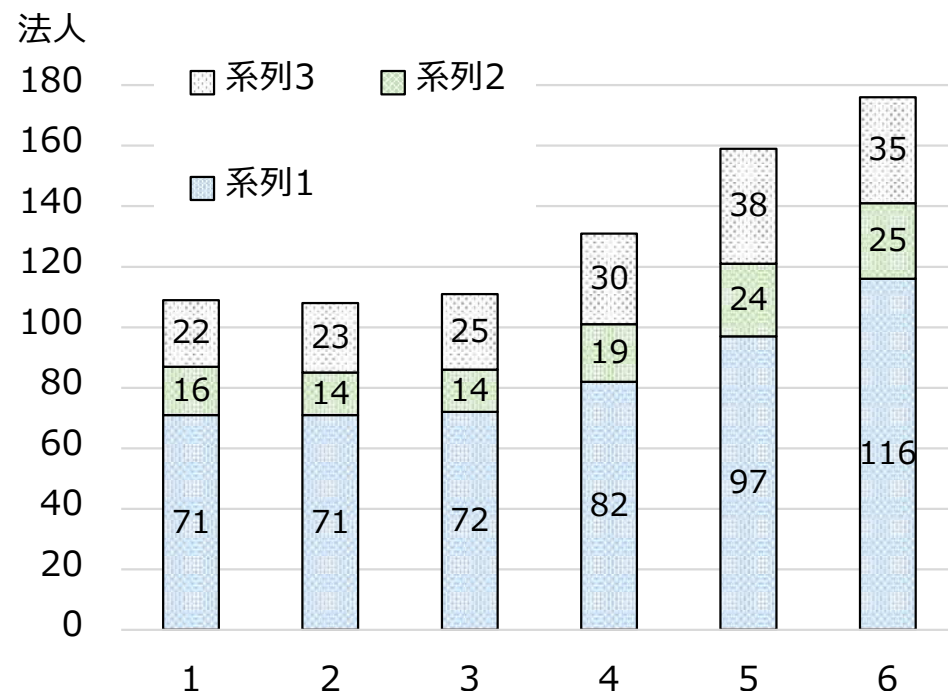
3-3 農業経営体数・農業参入数の推移

○農業経営体数は徐々に減少傾向である一方、
近年、一般法人の農業参入数は徐々に増加傾向。

本県の農業経営体数の推移



本県の一般法人の農業参入数の推移

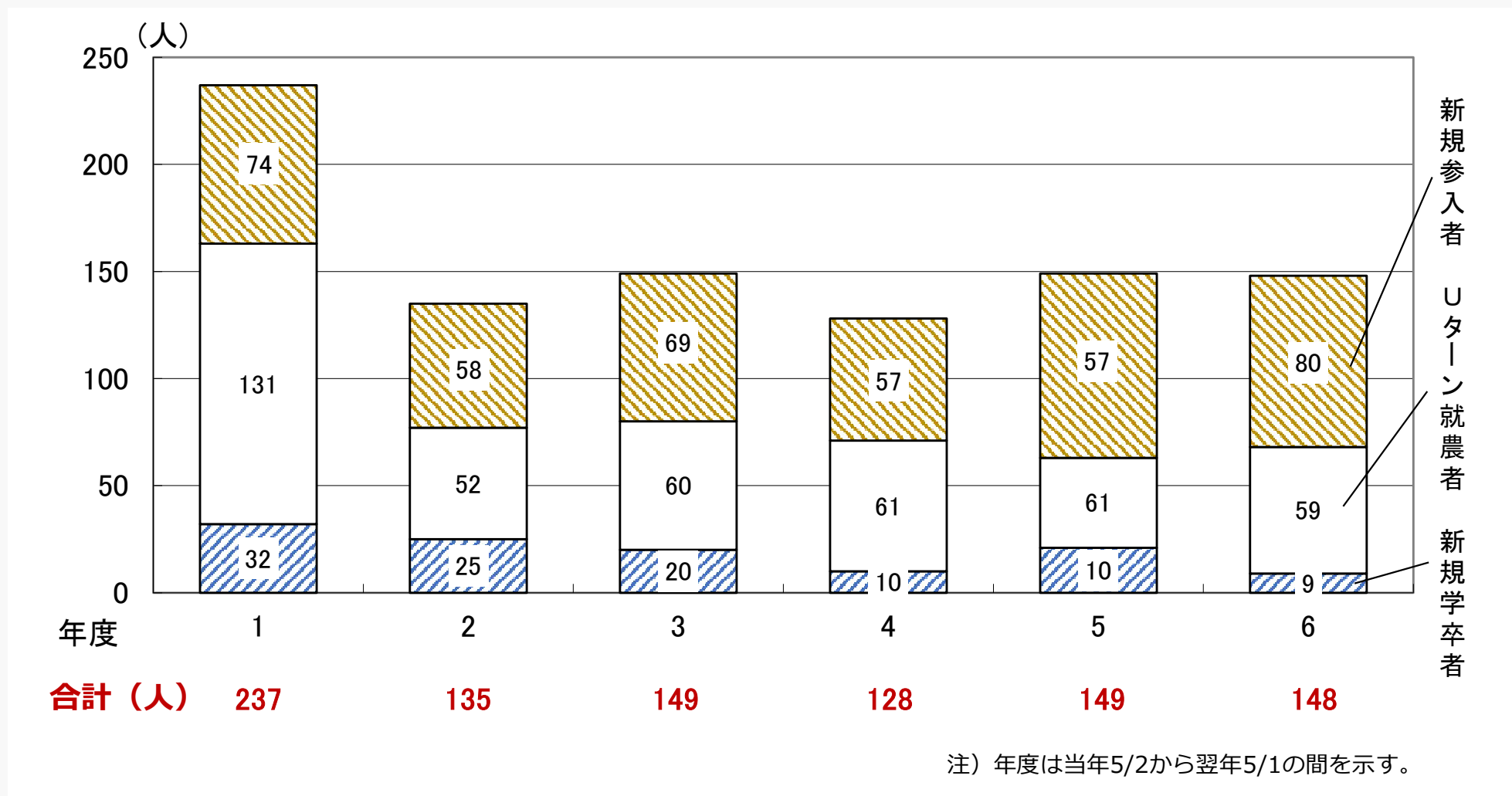


出典：農林業センサス、愛知県調べ



3-4 新規就農者の状況

○新規就農者（44歳以下）は年平均158人（2018～2023年度）。



出典：愛知県調べ



3-5 豊かな農林水産業

○産出額等が全国トップレベルの名古屋コーチン、花き、抹茶、あさり、うなぎなどの県産農林水産物のブランド力を強化し、知名度向上や需要の拡大を図る取組を推進。

愛知県の主な農産物日本一（2022年）

※ 産出額、()内は全国シェア



キャベツ
195億円 (21.6%)



しそ
137億円 (71.0%)



ふき
9億円 (37.5%)



うずら卵
29億円 (61.7%)



食用ぎく
8億円 (53.3%)

名古屋コーチン

・日本三大地鶏。唯一純粋種で供給され、知名度・品質ともに「地鶏の王様」と高い評価



・2024年1月に、羽根の形でヒナの雌雄鑑別が可能な卵用新系統（NGY6）を開発

花き

※ 産出額
()内は全国シェア

産出額は、1962年から61年連続で日本一



きく
223億円 (38.1%)



ばら
28億円 (16.5%)



洋ラン
50億円 (14.4%)



観葉植物
81億円 (45.3%)

あさり



あさり類(2023概算値)
2,900トン (53.7%)
【生産量: 全国1位】



うなぎ養殖(2023概算値)
3,810トン (20.8%)
【生産量: 全国2位】

抹茶(てん茶)

(2023年)

てん茶
365トン (8.7%)
【生産量: 全国4位】





3-6 県内各地域の農業

名古屋・尾張地域

木曽川による肥沃な土壌により野菜の生産が盛ん
都市近郊型の産地として多種多様な品目を生産

【主な生産物】

なす、ふき、桃、花き、ぎんなん、名古屋コーチン

豊田加茂地域

南西部の平坦地域と北東部の中山間地域
からなり、米や果樹の栽培、畜産が盛ん

【主な生産物】

米、小麦、大豆、なし、桃、てん茶、鶏

新城設楽地域

中山間地域で農地面積は少なく畜産
が盛ん

【主な生産物】

鶏、肉用牛、シクラメン

海部地域

木曽川のデルタ地帯に位置
し、豊かな水と肥沃な土壌
に恵まれた地域

【主な生産物】

米、れんこん、いちご、
トマト、鉢花

知多地域

愛知用水が通水し、農業が飛躍
的に発展。畜産が盛ん

【主な生産物】

乳用牛、肉用牛、豚、ふき、みかん、
ぶどう、洋らん

西三河地域

矢作川を水源とする明治用水等の水利に恵まれ、
農業用ハウスを利用した野菜や花の栽培が盛ん

【主な生産物】

米、小麦、大豆、てん茶、いちじく、洋らん

東三河地域

温暖な気候と豊川用水により、野菜や花を栽培する全国屈指の農業地域

【主な生産物】

キャベツ、トマト、しそ、きく、ばら、シクラメン、豚、肉用牛、うずら卵

米・小麦・大豆

米
小麦
大豆



果樹・茶

みかん
ぶどう
いちじく
なし
かき
筆柿
もも
ぎんなん
てん茶
せん茶



野菜

キャベツ
トマト
いちご
しそ
なす
ブロッコリー
ふき
とうがん



畜産

鶏
豚
乳用牛
肉用牛
うずら卵
名古屋コーチン



花き

きく
洋らん
観葉植物
ばら
カーネーション
シクラメン
花き苗類



3-7 全国有数の農業水利施設

- 木曽川・矢作川・豊川の水を、農業・生活・工業用水として総合的に利用。
- 基幹水利施設の水路延長は全国3位、農地面積に占める水路密度は全国1位。
- 農業のみならず、県民の生活を支える社会資本として、耐震化・更新整備を推進。

【木曽川水系】

○宮田用水

- ・主な受益地域 尾張西部
- ・受益面積 6,550ha
- ・取水開始 1608年
- ・水源 木曽川自流

○木津用水

- ・主な受益地域 尾張北部
- ・受益面積 1,694ha
- ・取水開始 1650年
- ・水源 木曽川自流

○木曽川用水

- ・主な受益地域 海部
- ・受益面積 6,273ha
- ・取水開始 1646年
(佐屋川開削)
- ・水源 木曽川自流

○愛知用水

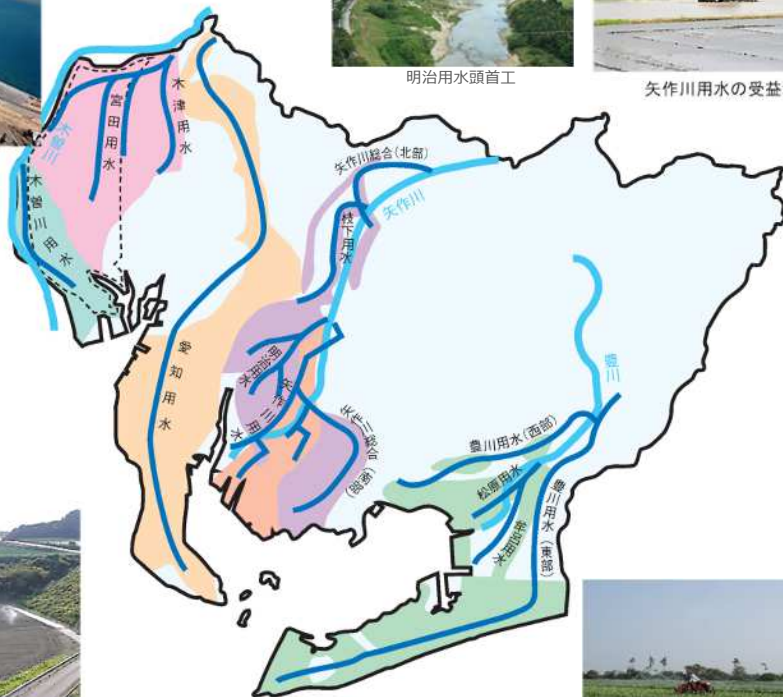
- ・主な受益地域 尾張東部、知多
- ・受益面積 14,596ha
- ・取水開始 1961年
- ・水源 牧尾ダム



大山頭首工



木曽川大堰



愛知用水幹線水路



愛知用水の受益地

【矢作川水系】

○矢作川総合用水（北部）

- ・主な受益地域 豊田加茂
- ・受益面積 682ha
- ・取水開始 1979年
- ・水源 矢作ダム

○枝下用水

- ・主な受益地域 豊田加茂
- ・受益面積 1,582ha
- ・取水開始 1884年
- ・水源 矢作ダム

○明治用水

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 4,759ha
- ・取水開始 1880年
- ・水源 矢作ダム

○矢作川用水

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 6,019ha
- ・取水開始 1963年
- ・水源 羽布ダム

○矢作川総合用水（南部）

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 1,006ha
- ・取水開始 1985年
- ・水源 矢作ダム



枝下用水幹線水路



羽布ダム



明治用水頭首工



矢作川用水の受益地



大島ダム



豊川用水の受益地



牟呂松原頭首工

【豊川水系】

○豊川用水

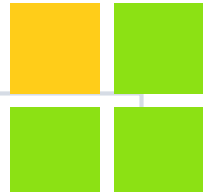
- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 15,350ha
- ・取水開始 1968年
- ・水源 宇連ダム
大島ダム

○松原用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 641ha
- ・取水開始 1567年
- ・水源 宇連ダム
大島ダム

○牟呂用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 970ha
- ・取水開始 1888年
- ・水源 宇連ダム
大島ダム



本日の講義内容

- 1 農林水産業の役割
- 2 我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～
- 3 実は全国有数 あいちの農業
- 4 **森林資源が充実 あいちの林業**
- 5 豊かな海の幸 あいちの水産業
- 6 愛知県の農林水産業が盛んな背景
- 7 愛知県の農林水産行政
- 8 「食料・農業・農村基本法」の改正



4-1 愛知県林業の位置

○林業産出額（2022） 31.6億円（全国33位）

出典：農林水産省統計部「林業産出額」

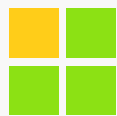
○木材・木製品出荷額（2021） 1,721億円（全国3位）

木材・木製品出荷額の全国順位（2021）

順位	2017	2018	2019	2020	2021（億円）
1位	静岡県	静岡県	静岡県	静岡県	静岡県（2,355）
2位	北海道	茨城県	北海道	茨城県	北海道（1,872）
3位	茨城県	北海道	茨城県	北海道	愛知県（1,721）
4位	愛知県	愛知県	広島県	広島県	茨城県（1,707）
5位	広島県	広島県	愛知県	愛知県	広島県（1,562）

出典：経済産業省調査統計部「工業統計調査（産業編）」

（2020年次は「経済センサス－活動調査（地域編）」、2021年次は「2022年経済構造実態調査」

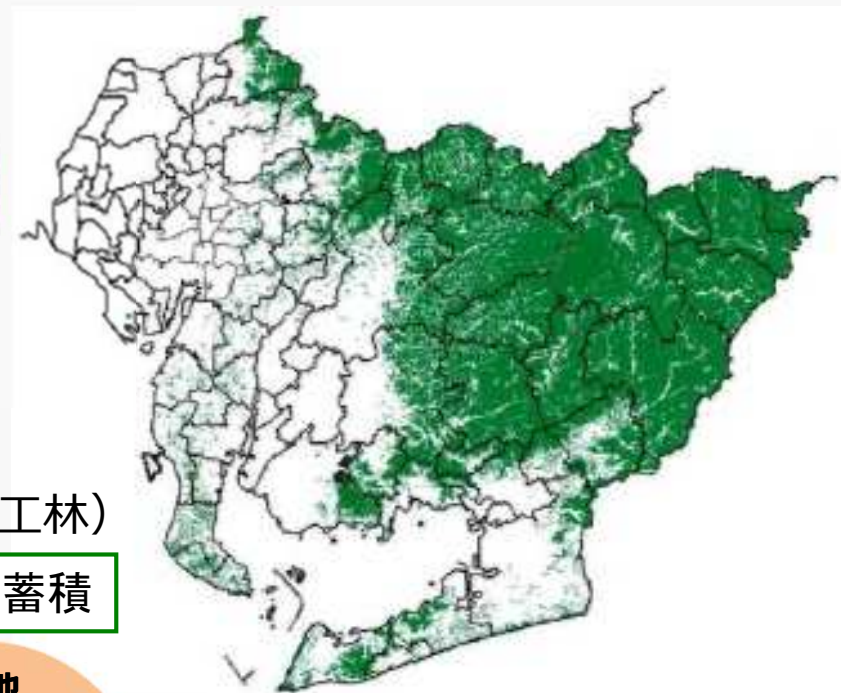
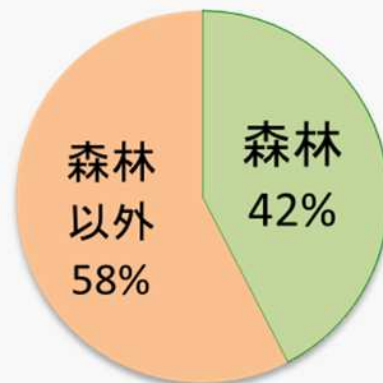


4-2 愛知県の森林

○県土の約4割を森林が占める。

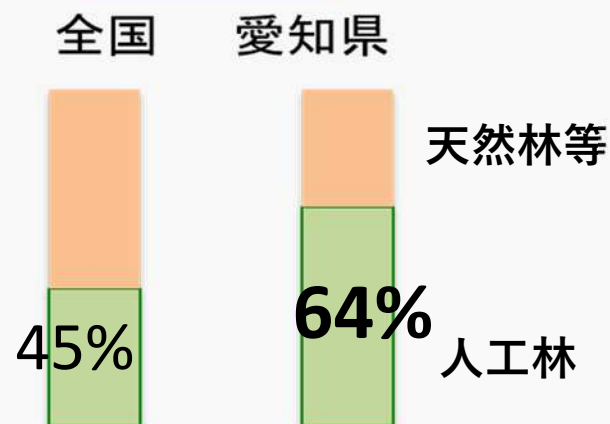
総土地面積 517,019ha

森林面積 217,743ha



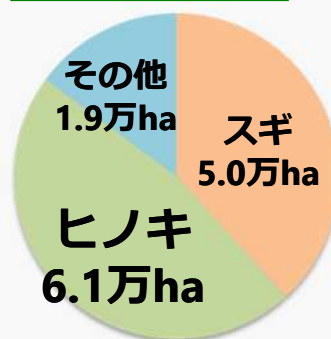
○人工林率63.6%（2022）、全国3位

人工林率

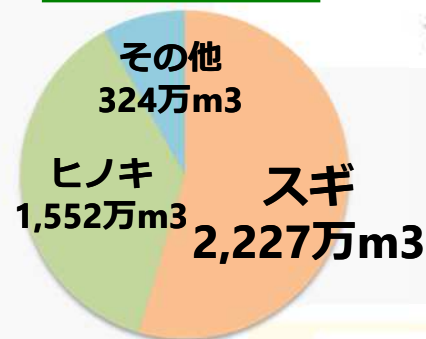


地域森林計画対象森林（人工林）

樹種別面積



樹種別蓄積

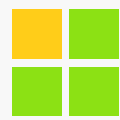


○人工林の約8割が10齢級（46から50年）以上。

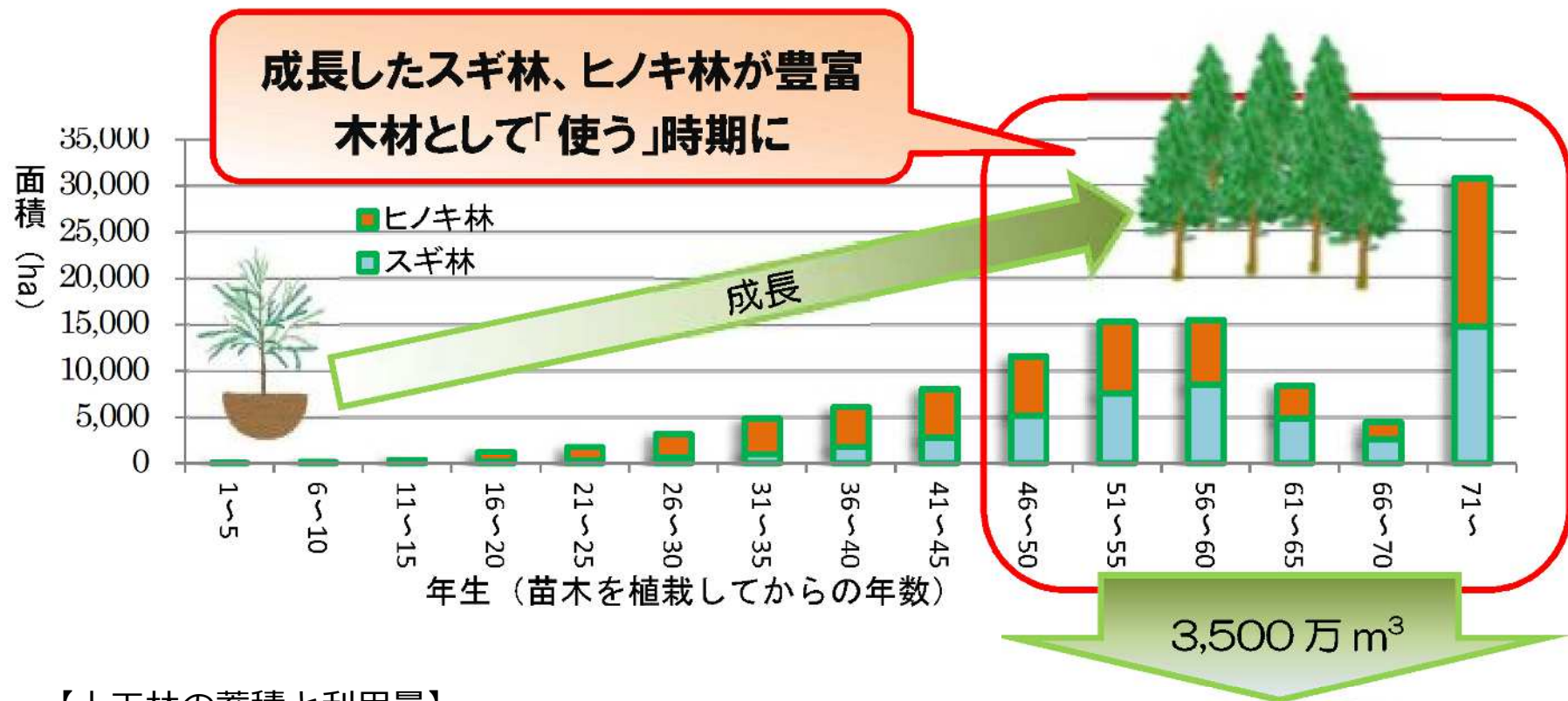
⇒資源の成熟が進んでいる。



資料：2022年度 愛知県林業統計書



4-3 あいちの森林資源は充実期



【人工林の蓄積と利用量】

蓄積 (千 m^3)		成長量 (千 m^3 /年)	利用量 (千 m^3 /年)
2017	2022	426	159
38,898	41,030		

出典：2022年度 愛知県林業統計書



○成長量の4割程度が利用されている。

本日の講義内容

- 1 農林水産業の役割
- 2 我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～
- 3 実は全国有数 あいちの農業
- 4 森林資源が充実 あいちの林業
- 5 **豊かな海の幸 あいちの水産業**
- 6 愛知県の農林水産業が盛んな背景
- 7 愛知県の農林水産行政
- 8 「食料・農業・農村基本法」の改正

5-1 愛知県の水産業の位置

○漁業総産出額（2022） 365億円

○海面漁業・養殖業（2022） 144億円（全国27位）

海面漁業・養殖業総産出額の全国順位

順位	2018	2019	2020	2021	2022（億円）
1位	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道(3,135)
2位	長崎県	長崎県	長崎県	長崎県	長崎県(1,109)
3位	愛媛県	愛媛県	愛媛県	愛媛県	愛媛県(979)
...	...	...	...	...	...
	24位 愛知県	25位 愛知県	24位 愛知県	24位 愛知県	27位 愛知県(144)

出典：農林水産省「海面漁業生産統計調査」



5-2 愛知県の水産物

○愛知県を代表する水産物（生産量が全国1－2位 2023概算値）

1位



あさり類 2,900 t
(全国シェア53.7%)



くるまえび 100 t



がざみ類 369 t
(全国シェア26.7%)

2位



うなぎ養殖 3,810 t
(全国シェア20.8%)



あゆ養殖 833 t
(全国シェア24.6%)



きんぎょ養殖 3,744千尾



5-3 愛知県水産マップ

出典：愛知県の水産業（愛知県）





本日の講義内容

- 
- 1 農林水産業の役割
 - 2 我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～
 - 3 実は全国有数 あいちの農業
 - 4 森林資源が充実 あいちの林業
 - 5 豊かな海の幸 あいちの水産業
 - 6 **愛知県の農林水産業が盛んな背景**
 - 7 愛知県の農林水産行政
 - 8 「食料・農業・農村基本法」の改正

6-1 愛知県の地勢と強み

【自然条件】

○国土のほぼ中央に位置し、大都市圏にありながら、伊勢湾・三河湾の海、三河山間地域を中心に県土の42%を森林が占めるという、豊かな自然条件に恵まれている。

【交通アクセス】

○高速道路、新幹線、港湾、空港と陸・海・空の交通条件に優れている。

【人口】

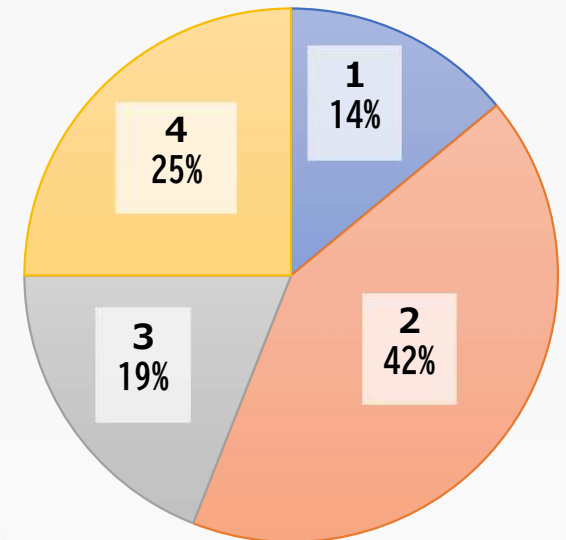
○人口は、約750万人で全国4位（※2020年国勢調査）

【産業】

- 農業産出額販売：全国8位（2022年）
- 製造品出荷額等：全国1位（2023年（1977年以来46年連続1位））
- 年間商品販売額：全国3位（2021年）

⇒バランスの良さ、ポテンシャルの高さが愛知県の強み

愛知県の土地利用状況



出典：愛知県 2022年版
「土地に関する統計年報」



6-2 農林水産業の発展を支えた要因

【立地条件】

○温暖な気候や自然条件に恵まれ、農林漁業に適した地域。

また、大消費地である名古屋圏が近くにあるなど、生産地と消費地が近接。

【農業用水の整備】

○木曽川、矢作川、豊川の豊かな水を利用し、早期から農業用水を整備。

○平野部を始め知多半島や渥美半島まで農業用水を供給しており、特に、東三河地域の農業発展の礎である。

⇒愛知県で、産業活動や生活のために使用される水の量は、約29億 m^3 /年。

このうち、農業用水は約50%を占める。

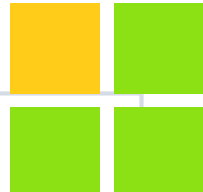
【技術開発力】

○古くからモノづくりが盛んで、技術の集積を農林水産業に転用。

○県は、各試験場で品種改良や新たな生産技術の開発などの取組を推進。



本日の講義内容

- 
- 1 農林水産業の役割
 - 2 我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～
 - 3 実は全国有数 あいちの農業
 - 4 森林資源が充実 あいちの林業
 - 5 豊かな海の幸 あいちの水産業
 - 6 愛知県の農林水産業が盛んな背景
 - **7 愛知県の農林水産行政**
 - 8 「食料・農業・農村基本法」の改正

7-1 食と緑が支える県民の

豊かな暮らしづくり条例（2004年）

○基本理念：

- ・ 将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。
- ・ 将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。

暮らしを支える食

○食の役割

食料は、人の生命の源であり、私たちの健康の維持に不可欠です。また、毎日食べるものだからこそ、量や品質の面での安全・安心が必要です。

○食のあり方

食事内容や食事の取り方など、私たちの「食のあり方」が時代とともに変化し、生活習慣病の増加や食料の生産・消費など様々な分野に影響を及ぼしています。

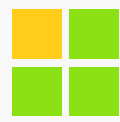
暮らしを支える緑等

○森林、農地、海や川

森林、農地、海や川は、食料等を生産する場所であると同時に私たちの暮らしの場の一部です。

○多面的機能の役割

森林、農地、海や川は、県土の保全や水源のかん養などの様々な機能(多面的機能)を持っており、自然災害の防止や地球温暖化の防止などにより、私たちの暮らしを守っています。



7-2 食と緑の基本計画

○「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」に基づいて
知事が定める、食と緑に関する施策の基本的な方針（5年毎に策定）。

- ・「食と緑の基本計画」
(2005年2月策定)
- ・「食と緑の基本計画2015」
(2011年5月策定)
- ・「食と緑の基本計画2020」
(2016年3月策定)
- ・「食と緑の基本計画2025」
(2020年12月策定)

「食と緑の基本計画2025」

■ 現状と課題

- ・ 人口減少局面における担い手の確保
- ・ 革新的な新技術の社会実装による生産性向上
- ・ 経済のグローバル化に対抗しうる競争力の強化
- ・ 脅威を増す感染症への対策
- ・ SDGs達成に向けた持続性の高い生産を推進
- ・ 県産農林水産物の消費拡大
- ・ 農林水産業への理解促進
- ・ 地球温暖化等の気候変動への適応
- ・ 農山漁村の維持・活性化に向けた“関係人口”の創出



7-3 食と緑の基本計画 2025

○2025年にめざす姿と目標

緊急プロジェクト

新型コロナウイルス対策

	めざす姿	目 標 ()内は現状値	重点 プロジェクト	施策体系
生産現場	持続的に発展する 農林水産業の実現	農業産出額 3,150億円 (3,115億円) 2014-2018平均	農業の 生産力強化	生産の柱
		県産木材生産量 18.0万m ³ (13.9万m ³) 2019年	林業の 生産力強化	
		漁業産出額 410億円 (390億円) 2014-2018平均	水産業の 生産力強化	
暮らし	農林水産の恵みを 共有する社会の実現	県産農林水産物を優先して購入したい 県民の割合 25.0% (15.4%) 2020年	需要拡大・ 魅力向上	暮らしの柱
		農山村地域の防災・減災面積 5年間で6,500ha	地域の 防災・減災	



7-4 農業の生産力強化等に向けた取組①

○「食と緑の基本計画2025」に基づき、農林水産業の生産力を強化するための様々な取組を展開。

産地生産基盤パワーアップ事業（国）

国際競争力の強化に向けて産地の生産力の向上を図るため、高収益化に必要な施設整備や機械の導入等を支援

<主な採択要件>

生産目標：産地全体で10%以上向上

面積：露地栽培：10ha、施設栽培：5ha

<支援状況（2023年度計画承認分）>

6市7事業（名古屋市、岡崎市、西尾市、常滑市、新城市、田原市）

<主な取組事例>

名古屋市

- **水稻**
- ・水田農業用大型機械の導入（1農家）

常滑市

- **施設野菜（パプリカ）**
- ・高度環境制御栽培施設の整備（1農家）

岡崎市

- **施設野菜（いちご）**
- ・低コスト耐候性ハウスの整備（1農協）

新城市

- **施設野菜（いちご）**
- ・低コスト耐候性ハウスの整備（1農協）

西尾市

- **施設野菜（いちご）**
- ・施設の改修（3農家）

田原市

- **施設花き（輪菊）**
- ・施設の改修、ヒートポンプの導入（2農家）

あいち型産地パワーアップ事業（県）

国の採択要件を満たせない産地を支援するため、**県独自**

の補助制度を創設（2018年度）

2024年度
当初予算額：3億円

<主な採択要件>

生産目標：取組主体の事業単位で10%以上向上

面積：露地栽培：3ha、施設栽培：1ha

<支援状況（2023年度計画承認分）>

14市町24事業（瀬戸市、稲沢市、愛西市、津島市、弥富市、半田市、常滑市、岡崎市、安城市、西尾市、豊田市、豊橋市、美浜町、飛島村）

<主な取組事例>

稲沢市、愛西市

- **施設野菜（いちご）**
- ・栽培施設の整備等（8農家）

岡崎市

- **施設野菜（いちご）**
- ・栽培施設の整備等（3農家）

津島市、愛西市

- **水稻・麦・大豆・飼料作物**
- ・コンバインの導入等（6農家）

安城市

- **施設野菜（きゅうり）**
- ・栽培施設の整備（3農家）

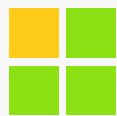
弥富市、飛島村

- **水稻・麦・大豆**
- ・コンバインの導入等（5農家）

豊橋市

- **施設野菜（大葉）**
- ・栽培施設の整備（3農家）

補完



7-5 農業の生産力強化等に向けた取組②

スマート農業推進事業

ICT等の先端技術について、現地実証等を行うとともに、研究機関との連携のための環境を整備し、スマート農業の生産現場への迅速な普及拡大を推進

※スマート農業とは：ロボット、AI、IoT 等先端技術を活用した農業。



ドローンを用いたリモートセンシングによる効率的な小麦の生育診断



スマートフォンを用いた野菜の生育診断

畜産クラスター事業

畜産の国際競争力の強化を図るため、地域ぐるみで実施する畜産の収益力向上を目的とした施設整備を支援

<支援状況（2023年度）>

4協議会5取組主体

- ・半田市、大府市、田原市、美浜町
- ・肉用牛農家2、養豚農家2、採卵鶏農家1



半田市（肉用牛1農家）

- 肥育牛舎1棟等

田原市（養豚2農家）

- 肥育豚舎各2棟等

大府市（肉用牛1農家）

- 肥育牛舎1棟等

美浜町（採卵鶏1農家）

- 育成鶏舎1棟等

名古屋コーチンの生産体制

生産拠点である「畜産総合センター種鶏場」の供給機能・防疫体制を強化するため、名古屋コーチン発祥の地と言われる小牧市内へ移転・整備（2023年3月完成）

- 市場ニーズを充足するため、出荷羽数を200万羽へ拡大



「地鶏の王様」名古屋コーチン



新種鶏場（小牧市）



7-6 農林水産物の需要拡大に向けた取組

○愛知の農林水産物のブランド力強化のため、様々な取組を展開。

- ・「いいともあいち運動」を推進。
- ・SNS等を活用した情報発信や、他産業と連携したPR。
- ・首都圏の量販店で、農業団体と連携したトップセールスを実施。
- ・食と花の街道（食16街道、花1街道）を認定し、広くPR。



いいともあいち運動

県民の方々に、愛知県の農林水産業の応援団になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという運動。



シンボルマーク「あいまる」

花の王国あいち

愛知県は1962年以降、61年連続で花き産出額が日本一。きく、洋らん、ばら、観葉植物など、品目別産出額日本一。



シンボルマーク：

愛知県が日本一の花の産地であることを知っていただくために作成

都市部における県産木材の利用促進

第70回全国植樹祭の開催理念を継承し、民間施設等の木造・木質化を促進。

木造・木質化を担う技術者を育成。



お野立所（愛知県森林公園）



Aichi Sky Expo（常滑市）



学童保育
（名古屋市）



7-7 農業のブランド力強化に向けた取組

○主要な作目のブランド力強化

愛ひとつぶ

○農業総合試験場が開発した米品種。

○猛暑の年でも見た目がつやつやで美しく、上品な甘みともちりとした食感のおいしいお米。



愛ひとつぶwebページ→



愛きらり

○農業総合試験場とJAあいち経済連が共同開発した品種。

○濃い赤色でツヤがあり、果実が大きい。しっかりとした甘さがある。



きぬあかり・ゆめあかり

○おいしいてきれいな麺ができる、うどん・きしめん用の小麦。

きぬあかりwebページ→



○ふんわりとしたおいしいパンができる、パン・中華麺用の小麦。

ゆめあかりwebページ→



夕焼け姫

○農業総合試験場が開発したカンキツ品種。

○名前は夕焼けのような鮮やかな赤橙色にちなんだもの。



夕焼け姫webページ→



あいみずき

○農業総合試験場と(独)農業・食品産業技術総合研究機構が共同開発した品種。

○際立つ甘さとみずみずしくシャリツとした食感が特徴。



みかわ牛

○県内で生産された黒毛和牛のうち、肉質等で厳選されたブランド和牛。

○肥育農家、食肉業者、食肉販売店、行政等で「みかわ牛銘柄推進協議会」を設立し、ブランド力を強化。



7-8 あいち農業イノベーションプロジェクト

○農業分野における担い手不足等の従来からの課題や、カーボンニュートラル等の新たな課題に対応するため、スタートアップ、大学、県農業総合試験場の連携を強化し、新たな農業イノベーションの創出を目指す取組。

○本県農業の課題

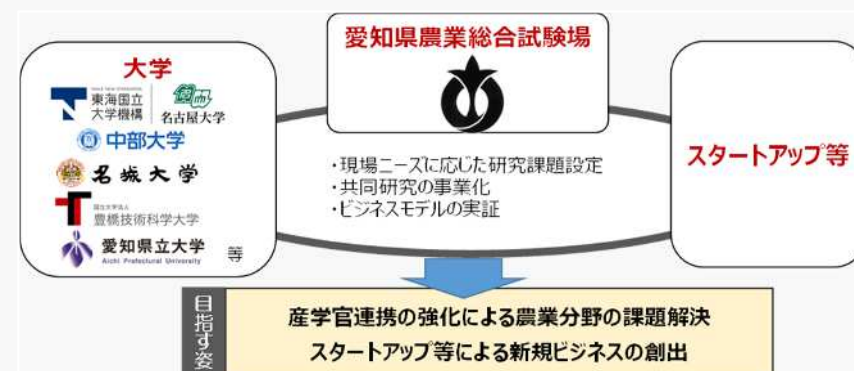
- 担い手減少や高齢化
- カーボンニュートラル、サプライチェーンの構築、SDGs
- スマート農業技術の開発加速化

○公募により選定したスタートアップ等と農総試が共同で、18課題の研究開発に取り組んでいる。

【主な研究開発の内容】

内 容	共同研究先
農業用アシストスーツの開発（テスト販売開始）	(株)ジェイテクト
ドローンによる生育診断のための画像処理技術の開発（現地試験開始）	サイポート(株)
ゲノム解析を用いた虫害抵抗性水稻品種の開発	グランドグリーン(株)
環境DNA検出キットの開発	(株)ニッポンジーン
AIによる大葉の病害虫診断技術の開発（現地試験開始）	(株)ミライ菜園
企業等からの排出CO ₂ をイチゴの生産に活用するシステムの開発	高圧ガス工業(株)
植物残渣由来の発熱体を利用した保温システムの開発	ジカンテクノ(株)
IoTを活用した茶の高品質生産技術の開発（現地試験開始）	センスコム合同会社
環境負担の少ない方法で生産した米の価値を消費者に伝える仕組みの開発（実証試験開始）	ウォーターセル(株)

農業総合試験場を拠点としたイノベーション創出



農業用アシストスーツ



ドローン生育診断 44



7-9 循環型林業の推進

循環型林業

「伐る・使う→
植える→育てる」



住宅



木製品



商業施設や公共施設



遊具



7-10 あいちのスマート林業

○林業の成長産業化や、森林の適正管理に向けた取組を推進。

森林資源の把握

路網設計・施業提案

木材生産の計画・管理

需給情報の共有





7-11 木材利用の促進

木材利用の促進に関する基本計画

○2022年4月策定。

○県産木材の利用促進に向けた県の基本方針や、木材の利用に関する目標等を記載。

○これまでの公共施設、公共工事を中心とした取組から、民間の建築物等における利用まで対象を拡大。

○木の香る都市（まち）づくり事業

県産木材を利用し、多くの県民が訪れる、PR効果の高い施設※に対して助成

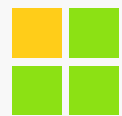
※オフィス（エントランス等）や病院、カフェなど、人が集まる施設



ささしま高架下オフィス（名古屋市）



名古屋ビルディング桜館（名古屋市）



7-12 漁業生産力の強化

干潟・浅場や貝類増殖場の造成



砕石を利用した増殖場整備
(あさり資源回復対策)



貝類増殖場と砕石に付着したアサリ

水産資源の増大や有効利用

栽培漁業の拡充や養殖業の導入



栽培漁業センターで生産した
クルマエビ放流種苗



漁業調査船「海幸丸」を活用した
水産資源調査

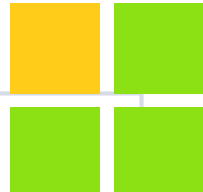
漁業生産に必要な栄養塩量の確保



栄養塩不足により色落ちした
ノリ（左）と正常なノリ（右）



栄養不良で身が小さいアサリ



本日の講義内容

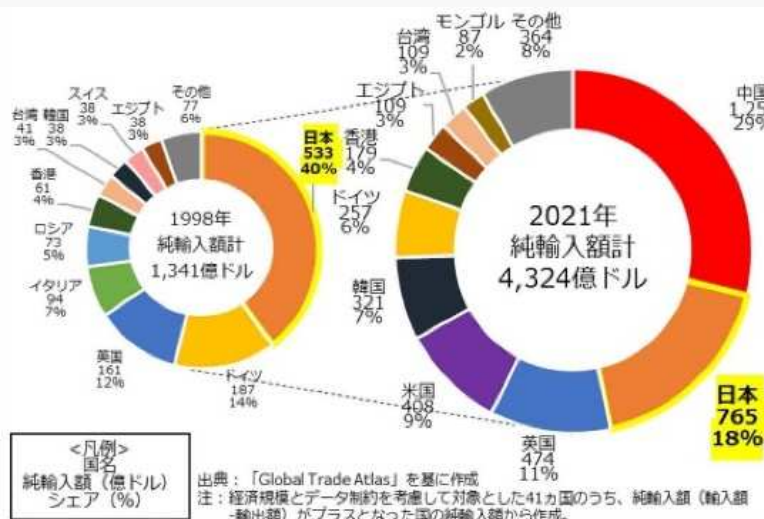
- 1 農林水産業の役割
- 2 我が国の農林水産業を取り巻く情勢
～農業を中心に～
- 3 実は全国有数 あいちの農業
- 4 森林資源が充実 あいちの林業
- 5 豊かな海の幸 あいちの水産業
- 6 愛知県の農林水産業が盛んな背景
- 7 愛知県の農林水産行政
- 8 「食料・農業・農村基本法」の改正

8-1 食料・農業・農村基本法 改正の経緯

○農政の憲法とも言われる「食料・農業・農村基本法」の制定から、四半世紀が経過。

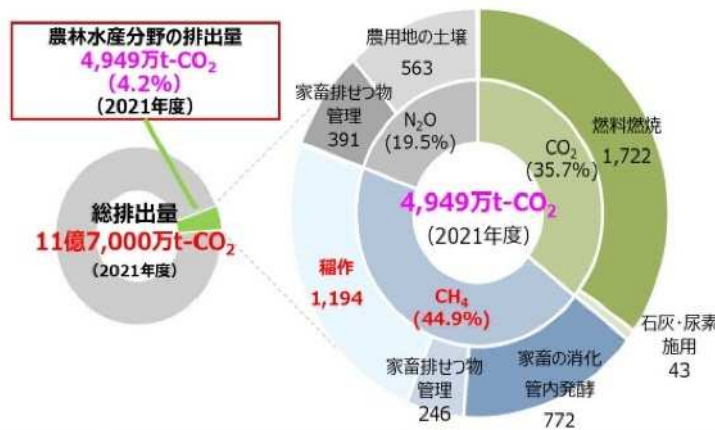
○世界の食料需給の変動、地球温暖化の進行、国内人口の減少、その他の食料、農業及び農村をめぐる諸情勢の変化への対応が必要。

●農林水産物純輸入額の 国別割合



- ・純輸入額の増加、中国の台頭
- ・世界的な食料需給の変化

●日本の農林水産分野の 温室効果ガス排出量



- ・全排出量のうち4%
- ・世界的な排出削減目標
(2030年に46%削減(2013年度比))

●基幹的農業従事者数の 年齢構成（2022）

基幹的農業従事者数：123万人
平均年齢（令和3年）：67.9歳
(万人)



出典：農林水産省「農業構造動態調査」（令和3,4年）

- ・高齢化の進行
- ・新たな担い手の育成



8-2 食料・農業・農村基本法 改正の内容①

- 「食料安全保障の確保」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」、「農業の持続的な発展」、「農村の振興」等の観点から、基本法を改正するとともに、関連法案を創設または一部改正。

食料安全保障の確保

(1) 基本理念について、

- ①「食料安全保障の確保」を規定し、その定義を「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれ入手できる状態」とする。
(第2条第1項関係)
- ②国民に対する食料の安定的な供給に当たっては、農業生産の基盤等の確保が重要であることに鑑み、国内への食料の供給に加え、海外への輸出を図ることで、農業及び食品産業の発展を通じた食料の供給能力の維持を図られなければならない旨を規定。
(第2条第4項関係)
- ③食料の合理的な価格の形成については、需給事情及び品質評価が適切に反映されつつ、食料の持続的な供給が行われるよう、農業者、食品事業者、消費者その他の食料システムの関係者によりその持続的な供給に要する合理的な費用が考慮されるようにしなければならない旨を規定。
(第2条第5項関係)

(2) 基本的施策として、

- ①食料の円滑な入手（食品アクセス）の確保（輸送手段の確保等）、農産物・農業資材の安定的な輸入の確保（輸入相手国の多様化、投資の促進等）
(第19条及び第21条関係)
- ②収益性の向上に資する農産物の輸出の促進（輸出産地の育成、生産から販売までの関係者が組織する団体（品目団体）の取組促進、輸出の相手国における需要の開拓の支援等）
(第22条関係)
- ③価格形成における費用の考慮のための食料システムの関係者の理解の増進、費用の明確化の促進等を規定。
(第23条及び第39条関係)



8-2 食料・農業・農村基本法 改正の内容②

- 「食料安全保障の確保」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」、「農業の持続的な発展」、「農村の振興」等の観点から、基本法を改正するとともに、関連法案を創設または一部改正。

環境と調和のとれた食料システムの確立

- (1) **新たな基本理念**として、**食料システム**については、食料の供給の各段階において環境に負荷を与える側面があることに鑑み、その**負荷の低減**が図られることにより、**環境との調和**が図られなければならない旨を規定。
(第3条関係)
- (2) **基本的施策**として、**農業生産活動、食品産業の事業活動**における**環境への負荷の低減の促進等**を規定。
(第20条及び第32条関係)

農業の持続的な発展

- (1) **基本理念**において、**生産性の向上・付加価値の向上**により**農業の持続的な発展**が図られなければならない旨を追記。
(第5条関係)
- (2) **基本的施策**として、効率的かつ安定的な農業経営以外の**多様な農業者**による**農地の確保、農業法人の経営基盤の強化、農地の集団化・適正利用、農業生産の基盤の保全**、先端的な技術（スマート技術）等を活用した**生産性の向上、農産物の付加価値の向上（知財保護・活用等）、農業経営の支援を行う事業者（サービス事業体）の活動促進、家畜の伝染性疾病・有害動植物の発生予防、農業資材の価格変動への影響緩和等**を規定。
(第26条から第31条まで、第37条、第38条、第41条及び第42条関係)

農村の振興

- (1) **基本理念**において、**地域社会が維持**されるよう**農村の振興**が図られなければならない旨を追記。
(第6条関係)
- (2) **基本的施策**として、**農地の保全に資する共同活動の促進、地域の資源を活用した事業活動の促進**、農村への滞在機会を提供する事業活動（**農泊**）の促進、障害者等の農業活動（**農福連携**）の環境整備、**鳥獣害対策等**を規定。
(第43条から第49条まで関係)



8-3 食料・農業・農村基本法 関連法の創設等

○「食料・農業・農村基本法」の改正に加え、以下の3つの関連法を創設または一部改正。

【食料供給困難事態対策法】

- ・不測時の食料安全保障強化のための新たな法的枠組みを創設。

国民生活・ 国民経済への影響の程度に応じ、早期から食料供給確保の措置を実施するための
政府の体制 等

【農地の総量確保と適正・有効利用に向けた農地法】

- ・食料安定供給のための農地法制の見直しによる一部改正。

農地の総量確保と適正利用のための措置の強化、農地所有適格法人の経営基盤強化 等

【農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用の促進に関する法律】

- ・スマート農業を振興する新たな法的枠組みを創設。

スマート農業技術等の研究開発・実用化と、それに適合するための生産・流通・販売方式の
見直しを推進するための税制・金融の支援措置の新たな整備 等

① 県内の消費者と生産者が
今まで以上にいい友関係になる

② Eat more Aichi products
(イート モア アイチ プロダクツ)
||
もっと愛知県産品を食べよう
(利用しよう)



いいともあいち運動シンボルマーク